

58 MRI 対応ペースメーカー植込み患者に対する当院での検査体制

AMG 上尾中央総合病院

○石川 応樹 土岐 義一 鹿又 憲仁 吉井 章

従来よりペースメーカー植込み患者においては、MRI 検査は禁忌とされていた。しかし、2012 年 3 月に MRI 対応ペースメーカーの薬事が承認されたことにより、このデバイスが植込まれている患者であれば、ペースメーカー植込み患者であっても MRI 検査が可能となり、当院でも 10 月 3 日に最初の植込み術を行った。

しかし、当院ではそのペースメーカー植込み患者に対する MRI 検査の対応が確立されていない状態であったため、検査施行できる体制を整備する必要性が生じた。

MRI 対応植込み型デバイス患者の MRI 検査の施設基準は、日本医学放射線学会 (JRS)、日本磁気共鳴医学会 (JSMRM)、日本不整脈学会 (JHRS) の 3 学会により 2012 年 8 月に策定され、施設基準や実施条件などが細かく記載されている。

その記載事項の中で、検討対象となった項目が・所定の研修を修了した循環器科医師が MRI 検査の安全性を確認の後、この循環器科医師が MRI 検査の依頼を行う。

→全ての MRI 検査のオーダーを循環器内科から依頼する必要がある、循環器内科に負担が掛かるのでは？

・MRI 検査の際には、ペースメーカー手帳などとともに提示しなければ MRI 検査を受けることはできない。

→待機的な検査の場合は良いが、緊急検査時に携帯していないと検査できないのか？

という上記 2 項目であった。

そこで当院の MRI 検査依頼方法として

- ①検査依頼医が胸部 X 線写真のオーダーを入力し、循環器内科に他科依頼。
- ②データ (胸部 X 線写真など) をもとに、循環器内科医師が MRI 対応ペースメーカーであるかを判断し、MRI 検査の可否を検査依頼医に伝える。
- ③検査可能であれば、検査依頼医が MRI 検査オーダーを入力し、ペースメーカー外来の予約を取得する。

という方向性で検討が進んでいる。

また MRI 装置の撮像条件として挙げられている、撮像中の血行動態モニタリングと除細動装置の準備という点では、心停止後 3 分間が蘇生のゴールデンタイムということもあり、検査室には DC を備えるのではなく、AED の整備を進めている。

今後の検討事項としては

- ・ペースメーカーのモード変更後の移動方法
- ・MRI 検査の適応
- ・緊急検査の対応

上記 3 点についてさらに話し合いを深めていく必要があると考えられる。